

お知らせ

INFORMATION

No.2018-21
2018年7月
病体生理研究所

新規検査項目受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ ROS1 融合遺伝子定性 (FFPE) [16475] …検査実施施設 (S)

※項目情報裏面参照

《受託開始日》2018年7月30日(月) 受付分より

【新規項目情報】

項目名称	ROS1 融合遺伝子定性 (FFPE)
コード	16475
検体材料	未染標本スライド5枚 または 未染色パラフィン切片5枚 ※1
保 存	室温
検査方法	RT-PCR (リアルタイム PCR) 法
基準値	(-)
所要日数	5~12日
実施料 (区分)	2500点 (D004-2 悪性腫瘍組織検査の「1」のヲ) ※2
判断料	尿・糞便等検査判断料 34点
備 考	<p>※1 当該検査に供する組織片は必ず病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが受託の必須条件となります。</p> <p>※2 ア) 「悪性腫瘍遺伝子検査」「造血器腫瘍遺伝子検査」又は「免疫関連遺伝子再構成」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。 イ) 悪性腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。 ウ) 本検査を算定するに当たっては、診療報酬明細書の摘要欄に記載する。</p>

▶ 未染色パラフィン切片材料について

HE 染色により腫瘍細胞の存在が確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより5 μ m厚さの連続切片を作製し、滅菌ポリスピッツ容器に入れ、室温保存にてご提出ください。

▶ 未染標本スライド材料について

HE 染色により腫瘍細胞が確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより5 μ m厚さの連続切片にてスライド作製願います。作製した未染標本スライドは、室温保存にてご提出ください。病理検査材料は、組織のホルマリン固定によりRNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますので、あらかじめご了承ください。特に生検標本は検体が微量であることが多く、組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意願います。他項目との重複依頼は避けてください。

ROS1 融合遺伝子とは、ROS1 の全チロシンキナーゼドメインとパートナー遺伝子の一部が融合して形成される融合遺伝子で、非小細胞肺癌・胆管癌・胃癌・卵巣癌など様々な癌で確認されており、染色体再構成によって活性化されています。本検査は、本融合遺伝子の検出を行い、切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌の患者に対し、クリゾチニブの適応判断の補助に用いられます。

以上